

Python 本の企画

目次

Python 本の企画	1
コンセプト	1
読者層	1
構成	1
ページ数	2
内容	2
リファレンス	2

コンセプト

非エンジニアのビジネスパーソン向けに実務に使える Python のスクリプトやツールを紹介する本にする。実行方法と結果を紹介してコードがわからなくても使えるようにする。プログラミングの入門書ではないため、文法やプログラミングそのものの解説は基本的に行わない。但し、読者がプログラムのコードを変更できるように要点やパラメーターなどのところは説明する。Python のようなスクリプト言語の利点の 1 つとしてデータと組み合わせて煩雑な作業を自動化する手順を紹介する。

読者層

読者層として以下のような職種を想定する。

- 一般事務・OA 事務: 資料作成などの事務業務。
- 営業事務: 受発注管理や請求書作成などを行い、営業担当者をサポートする仕事。
- データ入力・タイピング: パソコンでデータを正確かつ迅速に打ち込む。
- 経理・会計・財務: お金を管理し、経営をサポート。
- 総務: 会社組織全体が円滑に動くために欠かせない、潤滑剤の役割を果たす。
- 人事: 会社のコアとなる「人財」を動かしていく、影なるビジネスの立役者。
- 学校・大学事務: メインは施設管理や来客応対、経理補助。
- 通訳・翻訳: 複数の言語を操る語学力が肝。
- 広報・宣伝・IR: 会社の情報を世の中に発信。売上やイメージアップを図る戦略家。
- マーケティング・企画: 市場調査で顧客のニーズをキャッチ。

構成

ページ数

仮に総ページ数を 288 ページだと仮定すると、説明する内容とページ数の関係は以下になる。

- 2 ページ → 144 個の項目
- 4 ページ → 72 個の項目
- 6 ページ → 48 個の項目

内容

How と What の切り口を考える。

- How からの切り口 (基本)
 - Web ページをスクレイピングする
 - CSV ファイルを読み書きする
 - CSV データからグラフを生成する
 - Excel の指定したセルを読み書きする
- What からの切り口 (応用)
 - Web ページから簡単に資料を作成するコツ
 - 毎月の請求書作成を自動化するワザ
 - 業務でそのまま使える Excel 資料をデータとテンプレートから自動生成

非エンジニアは How には興味がないかもしれないが、What をするためには How も知っておく必要がある。前半を How に、後半を What にするといった構成を検討する。How を組み合わせて What を構成する、もしくは What を実現するためには How を知っておく必要がある。どちらの切り口であっても How と What の両方を含める。

リファレンス

- <https://ja.wikipedia.org/wiki/Python>
- <https://www.python.jp/>

